

秋岡 伸彦
東京農大客員教授
1938年生まれ。東大文学部卒。
元読売新聞コラムニスト。

卒業式

卒業の喜び、恩師や仲間たちとの惜別、そして、学び舎から社会へ巣立つ期待と不安…。胸に迫る万感の思いは、いつの時代でも変わることはない。

第一回、18人巣立つ

昔 東京農大の萌芽ともいべき私立育英黌(いくえいこう)が榎本武揚によって創設されたのは、1891年(明治24)5月だった。

2年間の修業年限を経て、1893年(明治26)の第1期生卒業記念写真が残っている。校名は東京農学校に変わり、校舎は当初の飯田橋から大塚窪町に移っていた。

前列中央に校主・榎本が洋装で、その右に校長・伊庭想太郎が羽織袴姿で写っている。後ろの2列に並んでいるのが卒業生たちだ。記録には18人卒業とあるが、何らかの理由で欠席者がいたのだろう、ここには17人しかいない。和装に混じって、洋服姿も見える。

その2年後、1895年(明治28)9月の卒業式の様子が読売新聞に報じられている。東京農学校に改称して第2回の卒業式だ。

「校主榎本子爵は卒業生本科十二名、専科二名に証書を授与し、次いで同子爵の祝辞朗読、校長伊庭想太郎の本校授業法の現況及び卒業生今後の処世法等についての演説あり」

「式全く終わり、それより来賓一同は別室に於いて酒茶菓の饗応を受けたり。ことに南瓜の灰吹、薩摩芋、キネカツギ等の産物を供したるは、さすが質素の実見えて興特に深かりし」



(写真上) 第1回卒業生の記念写真、前列中央が榎本武揚。(写真下) 常磐松に移転当初の東京農学校卒業記念写真

やがて、横井時敬が経営に参画した東京農学校は、その校舎を1898年(明治31)渋谷常磐松に移した。

移転当初の卒業記念写真で、背景に写っている瓦葺の建物が校舎だろう。木の門柱、竹垣ものどかな学園風景だ。卒業生の服装はさまざま、詰襟姿も登場して、誇らしげな顔が並んでいる。



昨春の学位授与式(世田谷キャンパス)

今春、約3,200人に学位授与

今 東京農学校から東京高等農学校時代を経て、戦後、現在の世田谷キャンパスに移転した東京農大は1953年(昭和28)春、新制大学として第1回の卒業生を社会に送り出した。

学士の称号が学位として位置づけられた1991年度(平成3)から、卒業式は「学位記授与式」に模様替えした。短大卒も05年度(同17)から「短期大学士」となっている。

今春も、厚木、オホーツク(網走)両キャンパスを含めて6学部21学科で約3,240人が卒業していく。